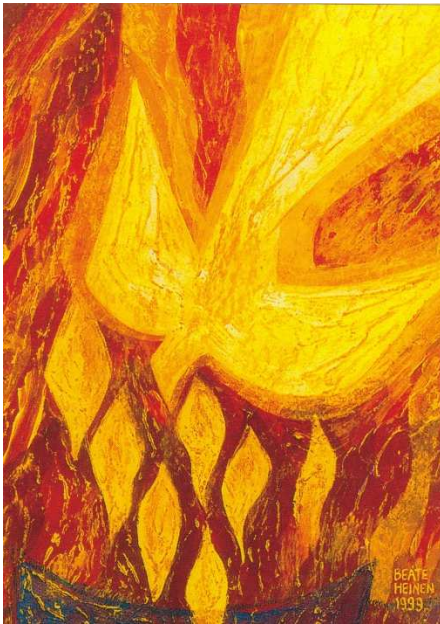


イエス様が「わたしは去っていくが、また、あなたがたのところへ戻って来る」と告げた時に、不安になった弟子たちに、「父は別の弁護者を遣わしてくださる」と励まし、それは「真理の霊」だと言われました。その後すぐに、イエス様が処刑され、弟子たちは絶望と不安におののいていました。マグダラのマリアたちは、墓に納めたはずの亡骸がなくなっていて、更に驚き、悲しみましたが、「必ず死者の中から復活されることになっている」と以前言われたイエス様の声を再び聞いて、復活されたことを信じました。けれども弟子たちはこれからどのように生きていけばいいのか、わからず、ただ集まって祈っていたのです。

やがて、イエス様が約束されたように、「真理の霊・聖霊」が弟子たちに与えられました。その日を記念するのが、今日の聖霊降臨日・ペンテコステです。私にはこの祝祭日がとても大切です。



聖霊降臨

Beate Heinen

五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、「霊」が語るままに、ほかの国々の言葉で話した。(使徒2:1)

という不思議な記事に驚きます。これは聖霊の働きを伝えるためのユダヤ人の伝統的な信仰の表現でしょう。

雲を御自分のための車とし／風の翼に乗って行き巡り

さまざまな風を伝令とし／燃える火を御もとに仕えさせられる。

私は上記の詩編(詩104:3-4)を読み、神は天に鎮座しておられるのではなく、非常に活発に働かれるのだと、いたく感じたことを覚えています。隠喩が見事で、その情景も美しいのです。神のマイ・カーは「雲」、エンジンは「風」だということです。また、「風」を伝令として出張させています。側近として働くのは「燃

える火」であるといえます。聖霊降臨日に、神の圧倒的な力が弟子たちに降り注いだと伝えていきます。目に見えない自由に吹く「風」は目に見えなくても、体で感じ、風によって揺れて、見る事が出来ます。焼き尽くす裁きのような「火」も、精錬し、清め、熱するというプラスのイメージの両面を持っています。その「火」が、英語では「特定の言語・母語・話す力」を意味する「舌」という形をとって、弟子たち一人一人にとどまったと言います。弟子たちがただ祈っていたら、聖霊がやってきたのです。「聖霊」をこのようなイメージで表現するとはなんと素晴らしいことでしょう。

聖霊は目には見えないわけですが、それを受けた者が変化した姿を見て、その働きを推し量ることが出来ます。人の評価は様々でしたが、ペトロが預言書ヨエルの言葉を引用した説教の、「**主の名を呼び求める者は皆、救われる**」(使徒2:21)という言葉にペトロの変化が明瞭に示されています。「罪人として殺されたイエスを、神は主とし、またメシアとなさった」と信仰を告白し、「私たちはその証人である」と、断言したのです。将来への不安しかなかった弟子たちは「命に至る道」であるイエス様への信仰を確信し、その信仰によって生きられると喜びました。それを伝え続けたいという新しい生き方を発見し、それに賭けようという熱い思いに沸き立ったのです。「聖霊」はペトロ達をそのように変化させたように、「信仰告白をさせる、生きる力、新しい生き方を得る」ことを生み出すのです。神は、御許に仕えていた熱い愛の火を、「伝令」として私たちに遣わしてくださるのです。私は聖霊降臨を常に祈り求め、私自身も新たに生まれ変わり、生きる喜びを味わいたいと願っています。